

# 1 スズキ株式会社

## 各社の考え方

### ① 算定を行う 背景・目的

- 当社グループは、四輪車、二輪車及び船外機などの製造販売を主な事業としており、原材料や部品の購買、製品の製造、販売を通じた事業活動には、温室効果ガスを低減する大きなポテンシャルが存在すると考えている。  
このため、自社の事業活動に伴う温室効果ガスの把握、削減だけでは無く、サプライチェーンを通じた温室効果ガスの排出量を把握し、削減する。

【販売製品例】



四輪車： ソリオ



二輪車： Vストローム800DE



船外機： DF115BG

### ② 算定結果の 活用方法

- 自社ホームページやサステナビリティレポート等で情報公開することにより、ステークホルダーとの環境コミュニケーションに活用している。
- 温室効果ガスを多く排出するカテゴリとその排出量を把握し、サプライチェーン全体の中でも優先して温室効果ガスを削減する取り組みをすることができる。

### ③ 算定のメリット

- CDPなどでScope3排出量の開示や削減量が求められており、それらに対応することができる。

### ④ 社内の 算定体制

- 環境活動を所管する部門が社内の取り纏め役となって、関連部署から算定に必要なデータ（製品販売実績、製品を構成する素材重量、財務情報など）を収集し、算定している。

## 2

## スズキ株式会社

## 各社の考え方

⑤ サプライチェーン  
排出量の削減に  
向けて

- カテゴリ11（販売した製品の使用）から排出される温室効果ガスがサプライチェーン全体の排出量の中でも大部分を占めることから、製品の燃費向上に取り組み、カテゴリ11の排出量の削減に努めていく。
- 当社グループは、今まで地球温暖化や大気汚染を抑制すべく、地球環境に優しい軽自動車や小型自動車のグローバルな普及拡大に努めてきた。
- 今後も「小さなクルマ、大きな未来。」をスローガンに、お客様の求める「小さなクルマづくり」、「地球環境にやさしい製品づくり」に邁進するとともに、生産をはじめ組織・設備・部品・環境などあらゆる面で「小さく・少なく・軽く・短く・美しく」を徹底し、ムダのない効率的な健全経営に取り組んでいく。

⑥ サプライチェーン  
排出量算定の  
課題

- 当社のようにグローバルで事業活動を行っている場合は、活動量（エネルギー使用量、廃棄物発生量、物流量）を把握することが難しく、算定にかかる負担も大きい。
- 海外拠点の算定について、原単位の入手が難しく日本の原単位を使用していることから、実情が反映できていない。

⑦ その他  
（任意）

- 2022年度排出量の算定から、算定方法の一部見直しを行いました。そのため、過去に本ウェブサイトへ掲載した資料との単純比較はできません。

# 3 スズキ株式会社

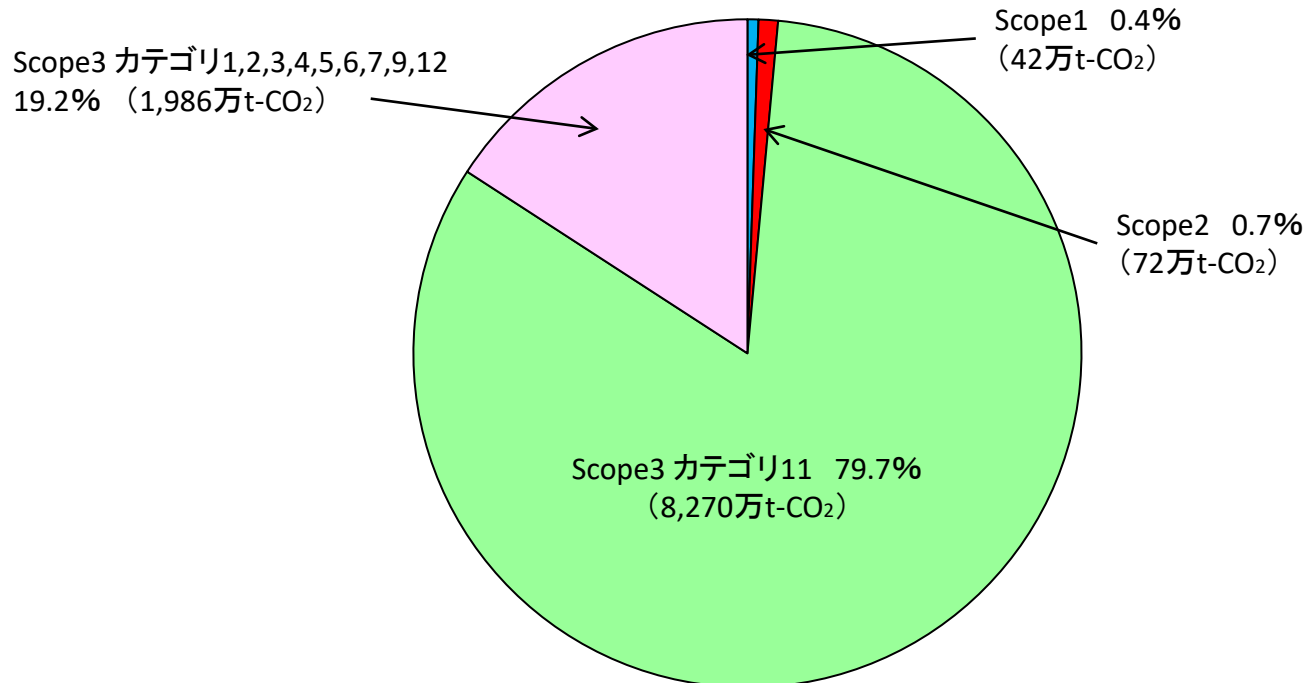
カテゴリ	算定方法 ※算定対象期間：2022年4月～2023年3月	
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	● 製品やサービスの購入費用	● 産業連関表に基づく排出原単位※
カテゴリ2「資本財」	● 資本財の投資額	● 資本財の価格当たり排出原単位※
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	● Scope1,2に係るエネルギー使用量	● 電気：燃料調達時の排出原単位※ ● それ以外：IDEAv2のエネルギー量当たり排出原単位
カテゴリ4「輸送、配送（上流）」	● 当社が費用負担する輸送に係る物流費 ● 当社が費用負担する製品輸送に係る輸送t・km	● 産業連関表に基づく排出原単位※ ● IDEAv2のt・km当たり排出原単位
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	● 廃棄物処理費	● 産業連関表に基づく排出原単位※
カテゴリ6「出張」	● 交通費支給額	● 交通費支給額当たり排出原単位※
カテゴリ7「雇用者の通勤」	● 交通費支給額	● 交通費支給額当たり排出原単位※
カテゴリ8「リース資産（上流）」	● Scope1,2で計上しているため当該カテゴリでは計上しない	
カテゴリ9「輸送、配送（下流）」	● 当社が費用負担しない製品輸送に係る輸送t・km	● IDEAv2のt・km当たり排出原単位
カテゴリ10「販売した製品の加工」	● カテゴリ1で計上しているため当該カテゴリでは計上しない	
カテゴリ11「販売した製品の使用」	● 販売した製品のCO2排出量、年間走行距離、平均使用年数(地域別)	● -
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	● 廃棄物の種類別排出量	● 廃棄物輸送：廃棄物輸送の排出原単位※ ● 廃棄物処理：IDEAv2の廃棄物処理方法別の排出原単位
カテゴリ13「リース資産（下流）」	● 主たる事業との関連がなく、全グループ企業を通じて排出量が少ないため算定対象外とする	
カテゴリ14「フランチャイズ」	● 主たる事業との関連がなく、全グループ企業を通じて排出量が少ないため算定対象外とする	
カテゴリ15「投資」	● 主たる事業との関連がなく、全グループ企業を通じて排出量が少ないため算定対象外とする	
「その他」	● オプションカテゴリのため未算定	

## 4

## スズキ株式会社

## サプライチェーン排出量算定結果

- 2022年度のサプライチェーン全体が排出する温室効果ガスを算定した結果、カテゴリ11の「販売した製品の使用」が占める割合は79.7%であった。このことから、今後も「カテゴリ11」を温室効果ガスを多く排出する”Hot Spot”と認識し、この“Hot Spot”をサプライチェーン全体の中でも優先して削減していく。



2022年度にサプライチェーン全体が排出した  
温室効果ガス排出量 10,370万t-CO<sub>2</sub>

当社の2022年度のCSR・環境に対する取り組みをまとめた「スズキサステナビリティレポート2023」は下記にありますのでご覧ください。  
<http://www.suzuki.co.jp/about/csr/report/>